



めだかだより



草笛学園 2026年 9月号

残暑が厳しいですね。暦の上では秋ですが、まだまだ暑さが続きそうです。水分補給をしっかりと、体調に気をつけながら、元気いっぱい遊びたいと思います。



『いいもの探しの行進』

「生活の主人公に」に生まれ変わった子どもは、自分の足で外の世界を探検するようになります。「何かいいものないかなあ」とまなざしでささやきあいながら歩む「いいもの探しの行進」です。キラキラ輝くまなざしには、はじめて出会うものに心をときめかす「何事も不思議と思う心」が、宿りは始めているのです。

「子どもの目の高さ」という感覚を大切にしてみましょう。子どもの目の高さに立って、一緒に世界を眺めてみます。そのとき、おとなが忘れかけていた無垢の感性に、もう一度出会えるではありませんか。まなざしや指さしで子どもが教えてくれたことに応えて、「ほんとうだねえ、きれいなお花あるね」「アリさん、いっしょうけんめいおしごとしているね」などとおとなの口をつい出ることばがあるでしょう。子どもと心をつなぐことができるおとなのことばこそ、子どもがモノには名前があることを知るきっかけになるのです。

つまり「ことば」は、おとなが子どもに教えるというような一方的な関係の中で学ばれていくものではありません。子どもの目の高さで心をつなぐという「共感の世界」の中で、子どもによって学びとられていくのです。

「いいもの探しの行進」は、命との出会いのきっかけにもなります。アスファルトの割れ目から咲く小さなタンポポ、いっしょうけんめいに餌をついばむ小鳥を、子どもの瞳はとらえます。きつと青空に浮く白い雲も、命があるように感じられるのでしょう。珍しくて、小さくて、キラキラしていて、そしてかわいらしく動くもの。

今、子どもの世界はキラキラの人工物に満たされていますが、命のあるものが創り出すあたたかさ、やさしさへの感覚や感情は、子どものなかから減退しているように思います。命へのセンサー、感性をもった子どもとして育ててほしいと願います。

参考文献『発達を学ぶちいさな本』 白石 正久 著

※個別相談も行っています。職員とゆっくり話したい、子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

次回のめだか教室は…



めだか教室①…10月13日（火）9：50～11：30『さんぽ』にいきます。

◎持ってくるもの タオル・着替え・水筒



めだか教室②…10月27日（火）9：50～11：30『さんぽ』にいきます。

◎持ってくるもの タオル・着替え・水筒

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします。

※園舎の工事の為、当面の間は受付時間を9：50～に変更しています。

『参加される皆様へ』～ご協力お願いします～

- お休みされる場合は、学園までご連絡ください。
- 参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します。
- 水分補給の為、お茶を用意してください。（ジュース類は控えてください）
- きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は、事前に職員までご相談ください。
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください。

